

世界ジオパークネットワークのための
自己評価用紙



自己評価表

この用紙に含まれる情報は、GGNの審査員に対し、申請書の概要を提供します。

ジオパーク自己評価表

- 事務手続上の欄(申請地域の情報、署名、概要)
- 申請地域の確認
 - I. 地質と景観
 - II. 管理組織
 - III. 情報と環境教育
 - IV. ジオツーリズム
 - V. 地域経済の持続性

世界ジオパークネットワーク
申請者の自己評価表

申請者

1. 申請地域の名称と国

アポイ岳ジオパーク(日本)

2. 申請者(機関)の名称

様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会

3. 申請者(機関)の住所

058-8501

北海道様似郡様似町大通 1 丁目 21

地域: 北海道

国: 日本

電話: 0146-36-2120

ファクス: 0146-36-2662

Eメール: apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp

4. 地域の大きさと地理的座標

面積(km²) 364.33

緯度経度 北緯 42° 07'40", 東経 142° 56'01"

5. 連絡先

ジオパーク責任者/運営責任者 坂下 一幸

地球科学関係者 新井田清信

地域開発担当者 佐々木 泰

ヨーロッパからの申請のみ

ヨーロッパジオパークネットワーク憲章の受入れ表明

要件:申請地域の管理機関は、EGN 憲章の規定をすべて受け入れます。

氏名	職務上の肩書	日付
署名		
氏名	職務上の肩書	日付
署名		

申請の概要

	カテゴリー	重み係数 (%)	申請者の 自己採点	審査員の 評価
I	地質・地形・景観			
1.1	地域	5	4.3(860/1000)	
1.2	地質保全(地質遺産の保存)	20	20.0(1000/1000)	
1.3	自然遺産、文化遺産	10	9.5(950/1000)	
II	運営組織	25	19.1(765/1000)	
III	情報教育・環境教育	15	13.0(865/1000)	
IV	ジオツーリズム	15	11.7(780/1000)	
V	持続可能な地域経済	10	8.0(800/1000)	
合計		100	85.6	

評価者の奥書き

氏名	職務上の肩書	日付
署名		
氏名	職務上の肩書	日付
署名		

申請する場合の注意

- 本申請書内で申請者が推薦した点すべてに対し、それを裏付ける文書を添付してください
- 新規申請における評価が 100 % でなければならない、ということではありません。ただし、すべてのカテゴリで 50 % 以上の評価を得ていなければなりません。

I. 地質・地形・景観	点数	自己採点	採点根拠
1.1 地域			
1.1.1 ジオサイトの一覧			
地域内にある“ジオサイト”の一覧(一覧を別途添付のこと)			
20以上のジオサイト	100	100	35のジオサイト(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
40以上のジオサイト	200		
得点の上限	200	100	
1.1.2 地質多様性			
申請地域には、地質年代区分上のいくつかの「紀」が地質体として見られますか(各10点で、最大100点まで) (一覧を別途添付のこと)	100	60	6つの年代(先カンブリア時代、トリアス紀、ジュラ紀、白亜紀、古第三紀、新第三紀)(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
申請地域には、はっきりと異なった岩石がいくつか見られますか(各10点で、最大100点まで) (一覧を別途添付のこと)	100	100	14種類の岩石(火成岩6:かんらん岩・蛇紋岩・はんれい岩・花こう岩・トータル岩・ひん岩、堆積岩5:礫岩・砂岩・泥岩・チャート・石灰岩、変成岩3:角閃岩・ホルンフェルス・黒雲母片麻岩)(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
申請地域には、地質学的、地形学的にはっきりした特徴がいくつかありますか(各10点で、最大100点まで) (一覧を別途添付のこと)	100	100	地質学的特徴10(日高変成帯最下部の幌満かんらん岩体、日高変成帯主帯下部～中部層、日高変成帯主体下部層、白亜系に貫入した岩脈、貝化石を含む浅海堆積物、白亜系前弧海盆堆積帯、イドンナップ帯の冬島変成岩、イドンナップ帯のメランジュ状付加体、日高主衝上断層、ポロシリオフィオライト帯) 地形学的特徴6(峡谷、ポットホール、浸食、かんらん岩の山体、海食洞、海食崖) (付属資料2 ジオサイトリスト参照)
得点の上限	300	260	

1.1.3 ジオパークの興味深いサイトにおける一般向け説明案内				
一般向けの説明案内があるサイトの数(探索路、説明案内板、パンフレットなど) (一覧を別途添付のこと)				
	5-10ヶ所	40		
	10-20ヶ所	80		
	20ヶ所以上	120	120	34カ所のジオサイトについて、説明看板がある(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
科学的に重要なサイト(一覧別途添付)	25%以上	40	40	35サイトのうち、19サイト(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
教育用のサイト(一覧別途添付)	25%以上	40	40	35サイトのうち、31サイト(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
ジオツアー用のサイト(一覧別途添付)	25%以上	40	40	35サイトのうち、20サイト(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
地質的要素がないがジオパークのために使われるサイト(ジオパーク活動に移行する)(一覧別途添付)		40	40	35サイトのうち、3サイト(付属資料2 ジオサイトリスト参照)
	得点の上限	200	200	
1.1.5 既存のジオパークとの関係 (次の中から一つを選んでください)				
既存のジオパークと同種のものGGNには全くない		300	300	アポイ岳の最大の特徴は、地下深くのマンツルの様子を知ることのできる新鮮かつ多彩なかんらん岩体を有している点にある。こうしたかんらん岩をもつ GGN メンバーには、イタリアの Sesia-Val Grande Geopark があるが、岩相の豊富さや規模からみてもアポイ岳と同種のものとはいえない。また、アポイ岳のその他の特徴としては、かんらん岩に大きく影響を受けた世界的にも貴重な高山植物相が成立していることや、地質・地形が地域の歴史や産業と密接に関連していることがある。よって、総合的に判断して、アポイ岳と同種のジオパークは他にはない。
GGNに、同程度の地質学的意義をもつジオパークがある		200		

Global Geoparks Network
SELF EVALUATION DOCUMENT

国内に、同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある	100		
国内の同じ地方に、同程度の地質学的意義や設備をもつジオパークがある(そこの時間と距離)	50		
得点の上限	300	300	

「地域」の小計	得点の上限	自己採点
	1000	860

1.2. 地質保全	点数	自己採点	採点根拠
1.2.1 申請地域にあるジオサイトの明細と意義（自己採点合計は 300 点を越えることはできません）			
世界的に、地質学的・地形学的に重要なジオサイトが 1ヶ所以上ある（それぞれ 100）（リストとその根拠）	160	160	世界的に貴重なかんらん岩が分布する、幌満峡エリア・アポイ岳エリアのジオサイト群（付属資料 2 ジオサイトリスト及び申請書 P15～16 B-2-1～B-2-2 参照） 根拠（申請書 P13～14 B-1-3, P19 B-3-3 参照）
国内的に重要なジオサイトが5ヶ所以上ある（リストとその根拠）	100	100	低標高ながら多くの固有な高山植物などを有する、アポイ岳エリアのジオサイト群（付属資料 2 ジオサイトリスト及び申請書 P16 B-2-2 参照） 根拠（申請書 P21～23 B-4-2(1)～(2)参照）
教育的意義があり、学校教育や大学で利用できるジオサイトが 20ヶ所以上ある（リストとその根拠）	100	100	35 サイトのうち、31 サイトが教育用サイトである（付属資料 2 ジオサイトリスト及び申請書 P15～18 B-2-1～B-2-5 参照） 根拠（毎年多くの大学巡検を受け入れている→申請書 P35 D-4-3 参照。また、学校教育においても教育用サイトを活用した地学・地域学教育が活発に行われている→申請書 P34 D-4-2(1)参照）
ジオサイトのデータベースはありますか（リストとその根拠）	50		
ジオサイトを示した地図はありますか（リストとその根拠）	50	50	ジオサイトマップがある（申請書 P15 及び別紙 4 アポイ岳ジオパークマップ参照）
得点の上限	300	300	
1.2.2 地質学的な場所や地形の損傷を保護する対策と法律（1つだけ選んでください）			

地域全体がその地質学的価値によって法令で規制の対象となっている	300		
地質学的な重要性によってエリアの一部が法律で保護されている(その場所と理由を示すこと)	150	150	1981年にアポイ岳一帯が日高山脈襟裳国立公園(根拠法:自然公園法)の一区画に指定されている。指定理由は、原始的な自然を残している点に加え、かんらん岩に代表される地質的な価値がある。 場所(申請書 P15 及び別紙 4 アポイ岳ジオパークマップ参照)
地質遺産の破壊や持ち去りが禁止されている	150	150	国立公園の特別地域及び特別保護地区では、県(北海道)の許可なく土石や植物を採取することは、自然公園法上禁じられている。
得点の上限	300	300	
1.2.3 ジオサイトの損傷や不正な利用を保護するために、どのようにしていますか			
損傷や不正利用を防ぐための規則を広く告知している	100	100	国立公園内の規制について、ウェブサイト(日・英)やガイドブック(日)に記載している。特に、高山植物に関しては、ウェブサイト(日・英)やガイドブック(日)、パンフレット(日)、ビジターセンター展示パネル(日・英)において、採取の規制を告知している。
損傷や不正利用を防ぐための規則を、各サイトに掲示している	50		
監視所を設置し、監視員による監視や巡回を行っている	60	60	ビジターセンターを拠点に、自然保護監視員などが定期的に監視・巡回を行っている。
規則に実効性を持たせる措置を行っている(採掘や採取の禁止など)	40	40	高山植物に関しては、警察も加わったパトロールを年 2 回実施するなど、重点的な監視活動体制が整っており、不正採取に関する実効ある措置となっている。
区域をさだめ、管理を行って地質標本採取を許可している(要説明)	40		
得点の上限	200	200	
1.2.4 ジオサイトとそれに関わる施設を損傷や自然劣化などから保護するために、どのような手段を講じていますか			

定期的なメンテナンスと清掃(要詳細、どのような頻度で?)	60	60	露頭そのものに対する保護は行っていないが、草刈りや清掃などのジオサイト周辺の環境整備は年3回程度行っている。また、アポイ岳登山道では、高山巡視員による恒常的なメンテナンスを行っている。さらに、住民総出によるエリア全体の清掃活動を年1回行っている(申請書 P28~29 C-3 参照)
保全対策(詳細を別途添付のこと)	70	70	アポイ岳において、高山植物の生育環境を回復するため、地表かく乱やハイマツの伐採などの再生実験を行っている(申請書 P28 C-2-2 参照)
保護対策(自然劣化防止用の処理、シーリングなど)(要詳細)	70	70	高山植物保護のためのパトロール、登山道整備、シカの食害調査、啓発活動を行っている(申請書 P28 C-2-2 参照)
得点の上限	200	200	

「地質保全」の小計	得点の上限	自己採点
	1000	1000

1.3 自然遺産、文化遺産	点数	自己採点	採点根拠
1.3.1 自然遺産の格付け(自己採点合計は 300 点を越えることはできません)			
ジオパーク地域内に世界遺産(自然または複合)地域がある (リストと根拠)	300		
ジオパーク地域内に上記以外の国際的な指定を受けた地域・ものがある(MAB=200、ラムサール湿地=200、その他=100) (リストと根拠)	200		
ジオパーク地域内に国の指定地域・ものがある(リストと根拠)	200	200	日高山脈襟裳国定公園:アポイ岳一帯 特別天然記念物:アポイ岳高山植物群落 天然記念物:幌満ゴヨウマツ自生地、ヒメチャマダラセセリ、クマゲラ、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシ、ヒシクイ、マガン (付属資料 3 自然・文化遺産リスト及び申請書 P3~4 A-3-5(2)参照)
ジオパーク地域内に地方(県)の指定地域・ものがある(リストと根拠)	100	100	鳥獣保護区:アポイ岳・幌満岳一帯、観音山 記念保護樹木:観音山の御神木 (付属資料 3 自然・文化遺産リスト参照)
ジオパーク地域内に市町村の指定地域・ものがある(リストと根拠)	50		
得点の上限	300	300	
1.3.2 文化遺産の格付け(自己採点合計は 300 点を越えることはできません).			
ジオパーク地域内に世界遺産(自然または複合)がある(リストと根拠)	300		
ジオパーク地域内に上記以外の国際的な指定地域・ものがある(リストと根拠)	200		

ジオパーク地域内に国の指定地域・ものがある(リストと根拠)	200	200	重要文化財: 蝦夷三官寺等澗院関係資料 重要無形民俗文化財: アイヌ古式舞踊 (付属資料 3 自然・文化遺産リスト及び申請書 P5 A-3-6(1), P21 B-4-1(3), P25 B-4-3(2), P31 D-2-2 参照)
ジオパーク地域内に地方(県)の指定地域・ものがある(リストと根拠)	100		
ジオパーク地域内に市町村の指定地域・ものがある(リストと根拠)	50	50	文化財: 等澗院護摩堂、等澗院古文書、南無仏太子像、薬師如来三尊仏像、聖観世音菩薩像、弁財天像、和助地蔵尊、様似山道(付属資料 3 自然・文化遺産リスト及び申請書 P21 B-4-1(3)~(4), P25 B-4-3(2)参照)
得点の上限	300	250	
1.3.3 自然遺産、文化遺産の利用促進			
解説・案内(インタープリテーション)(要詳細)	100	100	ウェブサイト、パンフレットなどで遺産を解説している。また、ジオツアーや住民学習会を通じて、ジオパークガイドや地域住民が遺産を解説・案内している。(申請書 P32~33 D-4-1(1), P36 D-5-1 参照)
教育プログラム(要詳細)	100	100	小中学校において自然・文化遺産を活用した総合学習を行っている。(申請書 P34 D-4-2(1)参照)
コミュニケーション(要詳細)	100	100	地域内においては、自然保護団体や教育委員会と連携しながら、自然遺産・文化遺産を活用した学習会を継続的に行っている。また、他地域との連携においては、北海道高山植物保護ネットワークでの交流を通じて、情報交換や相互登山などを行っている。

ジオパークの中にある「地質学的に重要なサイト」と既存の「自然」「文化」サイトとの関連の宣伝(要詳細)	100	100	ウェブサイトやハンドブック、ビジターセンターでの展示において、地質・地形と、生態系・暮らしとの関連を紹介している。 (ウェブサイト、アポイ岳ジオパークのテーマ参照)
得点の上限	400	400	

「自然遺産、文化遺産」の小計	得点の上限	自己採点
	1000	950

「地質・地形・景観」の項の合計点	得点の上限	自己採点
	3000	2810

II. 運営組織	点数	自己採点	採点根拠
2.1 運営組織はどのように組織されていますか？			
ジオパークには、はっきりとして明確な範囲はあるか？(詳しく述べよ)	50	50	アポイ岳ジオパークの範囲は、幌満かんらん岩体が露出しているアポイ岳を中心とした、様似町の行政区画として いる。(申請書 P1 A-2, P2 A-3-1 参照)
ジオパークには、ジオパークエリアの地質遺産を保護し、地域の持続的な発展を促すことを決定し実行するための、明確で効率的・効果的な組織があるか？(要詳細)	50	50	アポイ岳ジオパークの運営組織は、様似町内の行政機関、産業団体、自然保護団体、関連企業の代表によって構成された、推進協議会である。事業計画の立案は、分野別の部会での議論を経て、事務局が立案している。事務局は、様似町役場職員が担っており、遺産の保全、教育、ジオツーリズムに関して、総合的な対応を行っている。(申請書 P6~7 A-4 参照)
ジオパークスタッフは、直接またはジオパークパートナーに間接的に雇用されているか？(詳しく述べよ)	50	50	ジオパークスタッフ(事務局)は、パートナーである様似町の職員である。小さなコミュニティである様似町では、地方公共団体をはじめとする公的セクターの比重が大きい。行政職員が事務局を担い、地域住民とともに事業を進めていくことが、現時点では合理的である。
独立して管理運営執行する予算(要詳細)	50	50	様似町からの補助金、ツアー料金、グッズ売上金などを原資に、推進協議会が独自に管理、執行している。
得点の上限	200	200	
2.2 運営計画や基本計画はありますか？			

既存の運営計画または基本計画(10年以内) (要点をまとめた書類を添付すること)	40	40	アポイ岳ジオパーク独自の計画は未策定だが、地域づくりの基本となる様似町のマスタープランに、進むべきジオパークの方向性を位置づけている。(付属資料4第8次様似町総合計画におけるジオパーク施策の概要参照) なお、以下の個別の項目については、マスタープランの方向性に基づき、申請書に列記している。2015年度には、これに検討を加え独自の基本計画を策定する予定。
2.3 基本計画の項目(基本計画には何の項目が含まれていま すか?)			
大地の遺産(ジオサイトと景観)	10	10	申請書 P8~14 B-1, P18~19 B-3 参照
他の自然・文化遺産	10	10	申請書 P20~26 B-4 参照
自然遺産と文化遺産の関連	10	10	申請書 P20~21 B-4-1 参照
観光開発(インフラと活動)	10	10	申請書 P30~31 D-2, P32~34 D-4-1 参照
教育活動	10	10	申請書 P34~35 D-4-2 参照
地域開発	10	10	申請書 P36~38 D-5 参照
地域の産品=特産品(農業観光旅行)	10	10	申請書 P38 D-6 参照
地域社会の関係	10		
資金	10	10	町のマスタープランに資金計画がある。
市場戦略	10		
管理運営の強さと弱みの分析	20	20	申請書 P31~32 D-3 参照
地質学的なものや他の資源の審査・調査	20		
以下の点について達成目標はありますか?(特定の点について確認)			
地質学	5	5	申請書 P34~35 D-4-2~D-4-3 参照

	景観保護	5	5	申請書 P28～29 C-2-2, C-3 参照
	観光「ジオツーリズム」	5	5	申請書 P32～34 D-3-3, D-4-1 参照
	農業と林業	5		
地域開発(県/市町村単位)の可能性についての分析		10		
得点の上限		200	155	
2.4 マーケティング戦略がありますか？				
既存の戦略(10年以内のもの)(要点をまとめた書類を添付のこと)		50		
2.5 ジオパークでは地質遺産を保護し、持続性のあるジオツーリズムを立ち上げなくてはなりません。この点について、これまでどのようなことがなされてきましたか				
観光開発の目玉となる区域の画定		25	25	ジオサイトを設定する過程で、ジオストーリーごとの5つの小エリアを画定し、観光スポットを明確化した。
観光禁止区域の画定(保護、研究を主眼として)		20		
交通を規制し減少させるための対策(通行規制、集中駐車場、交通誘導システム、標識など)		15		
環境にやさしい散策路システム		10	10	地域内に、2つの散策コース(フットパス)を設定し、マップや道標を整備した(ウェブサイト、お勧めルート・コース案内参照)
自転車、あるいは馬や船(川)などによる探索路の整備		10		
得点の上限		80	35	
2.6 自然遺産、文化遺産の振興・促進を検討するイニシアチブや作業部会がありますか				
特定のテーマで作業部会が定期的に会合している		20	20	推進協議会の観光・産業部会及び教育・普及部会で定期的に会合を開いている。

申請者、観光協会、その他の利害関係者間で、個別の協力や協定がある	10	10	国定公園の普及と利用、自然保護に関して、公園管理者である県(北海道)と協力体制を敷いている。
上記以外の定期的な活動がある	10		
得点の上限	20	20	
2.7 申請地域は過去5年間に、地理多様性、保護、永続性のあるジオツーリズムに関する活動で、何らかの賞や公的な認定を受けたことがありますか(自己採点合計は100点を越えることはできません)			
国際的な賞(名称と受賞の日付)	100		
国内の賞(名称と受賞の日付)	50	50	日本ジオパーク:2009.2.20 日本の地質百選:2009.5.10(アポイ岳と高山植物群落) 県(北海道)社会貢献賞:2009.7.24(保護活動) 日本山岳遺産:2013.10.23(保護活動)
その他(例:産業界から、など)(名称と受賞の日付)	20	20	ほっく〜基金寄付認定:2014.5.13(保護活動)
得点の上限	100	70	
2.9 科学的な研究を進めることのできる優秀な地質学者あるいは科学の専門家がいますか(自己採点合計は140点を越えることはできません)			
地球科学または関連分野の学位を持つ常勤職員が1人以上いる	10	10	加藤聡美(修士・岩石学)
地球科学または関連分野の学位を持つスタッフが、申請機関の職員として5人以上いる(パートナーによって雇われている)	20		
それ以外にさらに、上記以外を専門とする常勤職員がいる(例:生物学など)	10		

1 つ以上の科学研究機関(大学、国の地質調査所など)と定期的かつ公的に共同活動を行っている	20	20	①北海道大学北方生物圏フィールド科学センターと包括連携協定を結び、地域資源の保全と活用、産業の振興等に関する共同活動を進めている。 ②北海道環境科学研究センター(県)と高山植物の生育状況について共同でモニタリングしている。
以下のような人から定期的にアドバイスを受けている			
地球科学研究の知識や経験を持つ人	15	15	(付属資料 5 専門家ネットワークリスト参照)
地球科学分野の経験を持つ人	10	10	(付属資料 5 専門家ネットワークリスト参照)
地域にいるアマチュア	5	5	(付属資料 5 専門家ネットワークリスト参照)
そのネットワークにはいくつの専門分野から参加者がいますか			
5 分野以下	5		
5 分野以上	10	10	(付属資料 5 専門家ネットワークリスト参照)
マーケティングの専門家はいますか。いない場合、担当者は誰ですか？	5	5	専門家はいないが、事務局の坂下志朗が担当している。
広報部はありますか。ない場合、担当者は誰ですか？	5	5	広報部はないが、事務局の児玉正敏が担当している。
スタッフは、見学旅行やガイドウォークを実施できますか？	5	5	事務局はすべて対応できる。
得点の上限	150	85	
2.10 申請地域には次の施設がありますか			
地域内に申請者やその協力者が運営する博物館	100	100	博物館の類似施設としてビジターセンターがあり、その補完施設としてアポイ岳地質研究所がある。(ウェブサイト参照)
地域内にインフォメーションセンター	80	80	観光案内所及びビジターセンターがインフォメーション機能を有している。
地域内に、申請者、申請者の目的と職務などを伝える「情報キオスク」か地域の情報拠点	40	40	観光案内所及びビジターセンターで、推進協議会の目的や職務を掲示している。
地域内に案内板	40	40	各所に総合案内板や誘導板を設置している。

地域内に申請者が整備したあるいは整備に関わった地質探索路がある	40	40	小エリアごとにルート設定している。
得点の上限	200	200	

	得点の上限	Self Assessment
「運営組織」項目の小計	1000	765

III. 情報と環境教育	点数	自己採点	採点理由
3.1 地域内における地球科学に関する研究、情報、教育などの科学活動			
地域内で活動する科学ないし学術研究機関が1つ以上ある	50	50	北海道北方生物圏フィールド科学センター 北海道環境科学研究センター(県)
少なくとも年間1件、卒論や修論(地質図作成など)の対象となる	40	40	付属資料6論文リスト参照
申請地域に関する博士論文が過去3年間に1件以上発表されている	50	50	付属資料6論文リスト参照
過去5年間で5件以上、科学的な、あるいはツーリズムに関して、申請地域の学術論文が発表されている	40	40	付属資料6論文リスト参照
得点の上限	180	180	
3.2 申請の地域内で、環境教育プログラムを行っていますか			
申請機関の常勤職員に、チーム内で環境教育を主な業務とする専門家がいますか	50	50	学芸員の田中正人と地質専門員の加藤聡美が担当している。
ジオパークの公式的な教育プログラムを少なくとも一つ実施していますか(どのようなプログラムか、簡単に説明してください)	30	30	住民向けに、「ふるさとジオ塾」と銘打った連続講座を2010年から実施している。(実施回数:49回、参加人数:述べ1,521人、2014年8月現在。申請書P36 D-5-1参照)
他機関(博物館など)が公式に実施する教育プログラムのいずれかに関与・寄与していますか	20	20	小中学校が行う総合的な学習、高校が行う地域学習に関与している(申請書P34 D-4-2(1)参照)
1人でも参加できる子供用プログラムがありますか	20	20	ビジターセンターでジオグッズづくりを提供している。
小学生向けのプログラムを行っていますか	20	20	「子どもジオ塾」と銘打ったジオグッズづくりや野外体験学習を年2~3回実施している。

中学・高校生向けのプログラムを行っていますか	20	20	中学校で行っている総合的な学習、高校で行っている地域学習にプログラムを提供している(申請書 P34 D-4-2(1)参照)
大学生向けのプログラムを行っていますか	20	20	アポイ岳地質研究所が地学巡検に訪れる大学の要望に応じて、ジオサイト案内などを行っている(申請書 P34 D-4-2(2)参照)
申請地域に大学のキャンパスか教育センターがありますか	20		
	得点の上限	180	
3.3. どのような教材がありますか(自己採点合計は 120 点を越えることはできません)			
学校の授業用の新教材を開発しましたか	20		
映画、ビデオ、スライドなど	20	20	アポイ岳の成りたちなどを紹介するビデオをビジターセンターで上映している。
双方向性教材／インターネット	20		
特別展示を定期的に更新	20	20	ビジターセンターで定期的に行っている。今年はエゾシカに関する展示を行ったが、来年は北海道内のジオパークを紹介する特別展を予定している。また、中央公民館では今年、中東のオマーンを紹介する特別展も開催している(申請書 P37～38 D-5-3(2)参照)
特殊な教育用具(パズル、特殊な道具など)	20	20	ビジターセンターに岩石に関するハンズオンアイテムを置いている。また、重さを実感するための 10 cm 角の岩石研磨標本がある。
その他、8 歳以下の子供を対象とした教材を製作しましたか	20	20	昔話を伝える紙芝居を作成した。
	得点の上限	80	
3.4 申請地域に関するどんな出版物がありますか			
地形・地質遺産の保護に関するもの	20	20	アポイマイマイ(アポイ岳ファンクラブ:1997～)

地域の地史に関するもの	15	15	日本地方地質史 1 北海道地方(朝倉書店:2010)、札幌の自然を歩く(北海道大学出版会:2011)など
地域の地史、自然、文化を関連付ける出版物	20	20	アポイ岳ジオパークガイドブック(様似町:2013)、アポイ岳ジオパークハンドブック(様似町:2012)
地域での環境にやさしい行動に関するもの	15	15	アポイマイマイ(アポイ岳ファンクラブ:1997~)、アポイ岳ジオパークガイドブック(様似町:2013)
地域内で観察できるものを上記以外の自然史的視点から見たもの	15	15	北海道高山植生誌(北海道大学出版会:2007)、アポイ岳の高山植物と山草(アポイ岳ファンクラブ:2003)など
歴史に関するもの	15	15	様似町史(様似町:1992)、等澍院文書(様似町教育委員会:2003)など
	得点の上限	100	100
3.5 団体旅行など、集団での生徒・学生向け地質学教育の対策がありますか(自己採点合計は 90 点を越えることはできません)			
申請機関の職員によるガイド付ツアー(説明と根拠を)	30	30	アポイ岳地質研究所が地学巡検に訪れる大学の要望に応じて、ジオサイト案内などを行っている(申請書 P34 D-4-2(2)参照)。また、小中学生のアポイ岳登山を学芸員と地質専門員が案内している。
加盟組織を通じてのガイドツアー(説明と根拠を)	15		
すべての利用者向けに日常的に行われている標準プログラム(説明と根拠を)	10		
人数を限定している(ガイド 1 名あたり 30 名まで、など)(説明と根拠を)	10	10	ガイド1人あたり 20 名を限度としている。

天候などの理由でツアーが実施できない場合の代替案は用意されていますか(説明と根拠を)	10	10	ビジターセンターとアポイ岳地質研究所を活用した座学や実験を行っている。
年齢別のプログラムが用意されていますか(説明と根拠を)	20		
科学の特別プログラムは用意されていますか(説明と根拠を)	20	20	アポイ岳地質研究所において、かんらん岩を中心とした地学プログラムを用意している。また、小学生の理科教育に関して、地質専門員がプログラムを提供している。
申請地域に関する教員向けの研修は用意されていますか(説明と根拠を)	20	20	小中学校の教員に対する研修を行っている。
得点の上限	100	90	
3.6 教育 – ガイド			
申請者が養成に関わった、ガイド付ツアーを担当できる能力のある常勤職員が本体の組織にいるか？(説明と根拠を)	20	20	事務局では、田中正人(学芸員)・加藤聡美(地質専門員)・原田卓見(事務局員)・児玉正敏(事務局員)・坂下志朗(事務局員)がガイド付ツアーを担当できる能力を有している。
申請者が養成に関わった、ガイド付ツアーを担当できる能力のある常勤職員が関連の組織にいるか？(説明と根拠を)	15		
個人向けガイド(常勤職員)(説明と根拠を)	20	20	上記の事務職員は、個人向けガイドにも対応できる。
個人向けガイド(パートナー組織)(説明と根拠を)	15	15	推進協議会の構成団体の一つである、アポイ岳ファンクラブに個人向けにも対応できるガイドがいる。
申請機関がトレーニングとプログラムを支援するフリーランスのガイドがいる(説明と根拠を)	20		
研修コース(説明と根拠を)	20	20	推進協議会が逐次コース設定し、ガイド研修を行っている。
得点の上限	100	75	
3.7 学校関係者による申請地域の利用促進のために、どのような情報を提供していますか			
学校や大学に手紙を出している	20	20	エリア内の小中学校には、ガイドブックなどを配布するほか、面談してアポイ岳ジオパークの利用促進を依頼している。

Global Geoparks Network
SELF EVALUATION DOCUMENT

パンフレット	20	20	パンフレットやガイドブック、リーフレットなどを配布。また、大学向けには、ウェブサイトに研究者支援のページを設けて、利用促進を図っている(ウェブサイト・研究者支援ページ参照)
マスコミへの発表(新聞、ラジオ、テレビ)	20	20	ジオパークに関連するイベントは、常にプレスリリースを行い、その利用を促している。
申請者が発行する定期刊行物(新聞、ニュースレターなど)	20		
得点の上限	80	60	
3.8 学校用のプログラムとしてインターネットを利用していますか。どのようなサービスを提供していますか			
申請地域内での環境教育に関する一般情報を載せたウェブサイト	50	50	ウェブサイトにおいて、アポイ岳ジオパークのジオストーリーを紹介するとともに、教育プログラムを含めた関連イベント情報も逐次公開している。
教育プログラムに対する対応をEメールで行っている	30	30	ウェブサイトに関合せフォームを設置している。
定期的に電子版ニュースレターを発行	20		
最新の活動カレンダーがある	20	20	ウェブサイトに年間スケジュールを公開している。
得点の上限	120	100	

	得点の上限	自己採点
「情報と環境教育」項目の小計	1000	865

IV. ジオツーリズム	点数	自己採点	採点理由
4.1 どのような宣伝素材がありますか？			
印刷物（パンフレット、雑誌など）	25	25	パンフレット、リーフレット、ポスター
一般向けの読み物（書籍、ガイドブック）	15	15	ガイドブック、ハンドブック、高山植物の本
CD やビデオ	15	15	紹介映像（DVD）
その他の宣伝用素材、製品	15	15	ウェブサイト、タブレット端末用地図アプリ、のぼり、ペーパークラフト、缶バッジなど
	得点の上限	70	
4.2 宣伝用製品は何ヶ国語で製作されていますか（自己採点合計は 80 点を越えることはできません）訳注：日本語もカウントできます			
英語	10	10	リーフレット（2 種、さらに 1 種を 2014 年度末までに作成）、パンフレット（1 種、表現の一部）、ウェブサイト、タブレット端末用地図アプリ、紹介映像（DVD、字幕）
フランス語	10		
スペイン語	10		
ロシア語	10		
中国語	10	10	パンフレット（1 種、表現の一部）
アラビア語	10		
その他の 1 言語ごとに 10 点を加えてください（説明と根拠を）	10	10	日本語（すべての宣伝用製品）
多言語での出版（一つの出版物に多言語表記）	10	10	日本語のパンフレットに、表現の一部だが英語及び中国語を併記している。
	得点の上限	80	
		40	
4.3 インフォメーションセンターや地域情報の展示が、申請地域内にありますか（自己採点合計は 100 点を越えることはできません）			

申請者ないしその協力機関が運営するインフォメーションセンターが地域内に1つ以上ある	30	30	様似観光案内所(観光協会)
申請者ないしその協力機関が運営する情報拠点やそれに準じる施設が地域内各所にある	20	20	アポイ岳ジオパークビジターセンター(様似町)、アポイ山荘(様似観光開発公社)、様似郷土館(様似町教育委員会)
ツアー時に集合場所となるインフォメーションセンターがある	10	10	様似観光案内所、アポイ岳ジオパークビジターセンター
インフォメーションセンターでは車椅子の利用が可能ですか、また他の障害者にも対応できますか	10	5	ビジターセンターで車椅子の利用が可能
参加可能な地域内での活動情報は、利用者に個々に提供されていますか	10	10	過去のツアー参加者には、ツアー情報をダイレクトメールしている。
センターは年間を通して週6日以上開館していますか(悪天候の場合を除く)	10	5	アポイ山荘のみ年中無休
得点の上限	100	80	
4.4. インフォメーションセンターやポイントでは、情報や説明案内をどのように掲示していますか			
ふつうの固定掲示板やパネル	10	10	ビジターセンターでは固定掲示板、観光案内所では簡易パネルを用いている。
映画、ビデオ、スライドショーなど	10	10	紹介映像を、ビジターセンター及びウェブサイトに掲示している。
双方向(対話型)ディスプレイ	10		
定期的に変更される特別展示	40	40	ビジターセンターでの登山情報
得点の上限	70	60	
4.5 交通の便と設備(自己採点合計は100点を越えることはできません)			
申請地域には公共交通機関を使って行くことが可能ですか	50	50	鉄道及び都市間バス
独自の(申請者・関係者が運営する)輸送手段がありますか	20	20	申請機関が主催するツアーにおいては、独自にバスを用意する場合がある。
徒歩や自転車用の探索路は公共交通を使って行くことが可能ですか	20	20	フットパスコース(様似八景・様似山道)の起点・終点には、鉄道駅及び路線バスの停留場がある(ウェブサイト・フットパスコース参照)

申請機関が設けた探索路入口には駐車場設備がありますか	20	20	フットパスコース(様似八景・様似山道)の起点周辺には、駐車場がある(ウェブサイト・フットパスコース参照)
駐車場には便所がありますか	20	10	フットパス様似八景コースの起点周辺に公衆トイレがある(ウェブサイト・フットパスコース参照)
得点の上限	100	100	
4.6 公共交通をつかって来園するよう、利用者に呼びかけていますか			
申請地域の宣伝用チラシ、パンフレットやホームページなどに、公共交通の情報を載せている	20	20	ウェブサイトに申請地域へのアクセス情報を掲示している(ウェブサイト・様似町へのアクセス参照)
申請地域や観光団体のホームページは、インターネット上の時刻表や交通情報が掲載された他のホームページにリンクされている	20	20	ウェブサイトの、申請地域へのアクセス情報ページに、公共交通機関のウェブサイトをリンクしているほか、時刻表も掲示している(日本語のみ)
公共交通、自転車など環境にやさしい方法で来園した人には、特別なサービスを提供している	10		
得点の上限	50	40	
4.7 申請機関やその協力機関が作成したガイド付ツアーとして、どのようなものがありますか			
地質学や地形学に特に興味のあるグループのためのツアー	10	10	地質学や地形学に興味のあるグループに対して、ツアー行程の提案やガイドを行っている(実績として、山遊会・パミス会・学校教諭・地学団体研究会などへの対応がある)
シーズン中定期的に行われるツアー	10	10	申請機関が主催するツアーを年5~6回行っている。
幅広い参加者を対象としたツアー	20	20	上記ツアーは、幅広い参加者を対象としている。
障害者用ツアーはありますか	10		
悪天候によりツアーが中止になった場合の代替策	10	10	ビジターセンターや郷土館、チセ(アイヌの伝統家屋)、等澗院(寺院)など、施設見学を中心としたツアーで対処している。

参加者に融通の利く予約システム(当日受付可など)や予約が不要	10	10	上記ツアーへの参加は、予約が前提だが、定員に満たない場合は柔軟に対応している。
得点の上限	70	60	
4.8 利用者に申請地域を理解してもらうため、他に何がありますか			
公園入口付近や他の観光スポットなどに読みやすい説明案内板を掲示している	20	20	公園内の要所に、総合案内板やPR看板を設置している。2015年度には、アポイ岳ジオパークの入口2カ所に大型のウェルカム看板を設置する予定
申請機関ないし協力機関によって整備された地質をテーマにした探索路が1つ以上ある	20	20	アポイ岳ジオパークでは、地域内にジオストーリーごとに区切った5つの小エリアを設けて、観光客の周遊を促している(ウェブサイトを参照)
得点の上限	40	40	
4.9 他機関との間で、情報や活動調整をどのように行っていますか			
情報や宣伝用品を共用している	20	20	ウェブサイトに、他機関のウェブサイトをリンクし、情報を共有している。また、パンフレットやチラシの共用は、日本ジオパークネットワークや自然公園ネットワーク、観光団体ネットワークを活用している。
得点の上限	20	20	
4.10 インターネットを利用していますか、またその場合、どのようなサービスを提供していますか			
地域の総合案内が載ったホームページを持っている	40	40	ウェブサイトには、地域のあらゆる情報が網羅されている(特に日本語において)
観光協会、地域住民、地方自治体などのホームページへのリンクがあり、申請地域のさまざまな情報が得られる	10	10	ウェブサイトには、地域内の団体のウェブサイトや個人のブログなどもリンクしている(日本語)
ジオパークの管理者とEメールで連絡がとれる	5	5	ウェブサイトには、問合せフォームを設置し、Eメールでの連絡がとれるようになっている。
定期的なニュースレターをメールで配信	10	10	定期的なニュースレターという形では配信していないが、ツアー情報をダイレクトメールしている。また、連続講座の内容を「ジオ塾通信」としてまとめ、ウェブサイトに掲示している(日本語)
出版物のオンライン注文	10	10	ウェブサイト上に、通信販売の情報を掲示している(日本語)

最新の活動カレンダー	15	15	ウェブサイト上に、年間スケジュールを掲示している(日本語)
来訪者が参加できるツアーなどの案内	10	10	ツアー実施にあたっては、ウェブサイト開催広告を掲示している(日本語)
得点の上限	80	80	
4.11 乗馬、カヌー、サイクリング等の活動施設には、どのようなものがありますか(上限 100 点)			
観光や科学的に興味深い地点を結ぶ遊歩道ネットワーク	10	10	アポイ岳登山道(アポイ岳エリア)、フットパス様似八景コース(様似海岸エリア)、フットパス様似山道コース(日高耶馬溪エリア)(ウェブサイト・アポイ岳ジオパークのエリア及びフットパスコースページ参照)
統一された、あるいは一定の基準の道標が遊歩道に整備されている	10	10	上記の道には、それぞれに統一された道標が置かれている。
施設等は定期的に点検し、确实迅速に補修を行う体制	10	10	アポイ岳登山道は、国定公園の巡視員が定期的にパトロールしている。その他のルートも、申請機関が巡回し、問題があれば迅速に対応している。
ハイキングやサイクリング用の情報を載せた地図	10	10	登山道及びフットパスコースの地図は、それぞれウェブサイトから入手することができる(ウェブサイト・お勧めルート・コース案内ページ参照)
これまでの設問で点数に加えなかった、特定のテーマ(鉱山、考古学、建築など)に関する遊歩道がある	10		
運営母体のメンバー機関が提供あるいは中心になって対応する、ガイド付の自転車や徒歩などによるツアーがある	10	10	申請機関が主催する、登山・フットパスツアーがある。
運営母体のメンバー機関が提供あるいは中心になって対応する、ハイキングやサイクリングツアーに、数日間にわたるパッケージツアー(食事、宿泊付)がある	10	10	上記の登山・フットパスツアーは、2日間にわたったパッケージツアーである。
運営母体のメンバー機関が提供あるいは中心になって対応する、手荷物を搬送してくれる数日間にわたるハイキングやサイクリングのパッケージツアー(食事と宿泊付)がある	10		
運営母体と協力して活動する、一定の基準に基づいたハイキングやサイクリングのためのホテルやペンションのネットワークがある	20		
得点の上限	100	60	

4.12 ジオツーリズムがめざすものを、特にツアーの実際の責任者(社)に、どのようにして普及し、伝えますか			
個人的に直接会う、あるいは申請機関に関与させる	10	10	合同の商談会に参加するほか、個別に直接会うなどして宣伝している。
よい実例を奨励するために定期的に表彰を行う	20		
公式な協力者／助言者／スポンサーを選任、あるいは指名	20		
得点の上限	50	10	
4.13 持続可能な手段で(車を使わない、など)楽しめる次のような探索路はありますか			
地質の遊歩道	20	20	アポイ岳登山道、フットパス様似八景コース
文化の遊歩道	10	10	アポイ岳登山道、フットパス様似八景コース、フットパス様似山道コース
森の遊歩道	10	10	アポイ岳登山道、観音山、フットパス様似山道コース
その他の遊歩道	10	10	アポイ樹木園
これまでに書かれていないその他の野外活動	10	10	漁船を使った海のツアー
得点の上限	60	60	
4.14 利用者の見積り			
利用者数をどのように把握しますか	20	20	登山者名簿、各施設の入館者数などをもとに入込数を推計している。
入場券／利用者カウンター		Yes	ビジターセンター、観光案内所等
ツアーの参加者数		Yes	ツアー客やガイド利用者
推定		Yes	観光動態調査
来訪者の調査		Yes	登山者名簿
利用者がどこから来たかを調べていますか	20	20	登山者名簿、宿泊者名簿
予約時の住所		Yes	ツアー客、ガイド利用者、宿泊者
市場調査			
大学の研究			
今後の計画にこうした利用者調査を用いていますか	20		
利用者の社会経済プロフィール(家族構成、学年、年金受給者か、団体旅行か、など)について分析を行っていますか	10	10	申請機関主催のツアーでのアンケートを参考としている。

利用者の満足度調査がありますか	10	10	申請機関主催のツアーでのアンケート
得点の上限	80	60	

	得点の上限	自己採点
「ジオツアー」項目の小計	1000	780

V. 持続可能な地域経済	点数	自己採点	採点理由
5.1 地場の食材や工芸品の飲食店や仕出しなどへの利用を推進するため、どのような工夫をしていますか			
申請機関が開発あるいは積極的に支援した地元の食材や環境にやさしい製品などを推進している	50	50	はちみつ、日本酒、醸造酢、アイスクリーム、ジャム、昆布チップスなど、地元の食材を活用した製品を、ジオパークの推薦商品としてウェブサイトなどで宣伝している(日本語)
地元の食材や環境にやさしい製品を利用するレストランがある	30	30	地元食材を活用したレストラン・喫茶店(弁慶・女郎花・エゾ鹿・アビヨン・マザー)がある。
申請者が地域の農産物販売所を運営している	50		
地元の食材や、郷土料理専用のブランドがある	30	30	日高昆布・冬島昆布・日高いちご・銀聖(サケ)・王鱒(カレイ)
地域の農産物の直売を推進している	40	40	季節限定ながら、様似町が農産物直売所を開いているほか、アポイ山荘でも地元農産物を販売している。また、秋には地域の収穫祭も行われている。
得点の上限	200	150	
5.2. ジオツーリズムの土産品などを地元で開発、推進するため、どのような工夫がなされていますか(自己採点合計は100点を越えることはできません)			
地質・化石模型などの制作を推進している	50	50	ジオパークグッズの一つとして、アポイ岳ペーパークラフトがある。
化石模型などの土産品が地元で製作・販売されている	100	100	地元で製作したジオパークグッズを、ビジターセンターや観光案内所などで販売している。
申請機関やその協力機関が地元の製品を中心に扱う販売所や店を運営している	50	50	ビジターセンター(様似町・アポイ岳ファンクラブ)、観光案内所(様似町観光協会)、アポイ山荘(様似観光開発公社)
得点の上限	200	200	
5.3. 地域の手工芸品などの活性化をどのように進めていますか			

Global Geoparks Network
SELF EVALUATION DOCUMENT

地域の手工芸品の販売を積極的に支援している	50	50	アポイ山荘では、地元で作られたかんらん岩の端材を使った花器の販売を推進している。
地域の手工芸品が展示されている施設がある	100	100	アポイ山荘、ビジターセンター、観光案内所
得点の上限	150	150	
5.4 ジオパークの申請者と地場産業との関係をどうやって深めていますか(自己採点合計は 100 点を越えることはできません)			
申請者が単独または他機関と協力して開発した地元製品やサービスのブランドがある	50	50	はちみつ、日本酒、醸造酢、アイスクリーム、ジャム、三升漬(保存食)、昆布チップス、ストラップ、米、ぬいぐるみ、ポロシャツなど
申請機関が中心となって、地元製品の直売をしている	50	50	アポイ山荘、ビジターセンター、観光案内所などで販売されている製品をジオパークのウェブサイトやパンフレットに掲載し宣伝している。
ツアーには地元会社と協力したツアーがある	20	20	海産物直売所や水産加工場、水力発電所の見学など、地域の企業と連携したツアーを行っている。
得点の上限	100	100	
5.6 申請の地域で、地場産業とどのような契約が定期的にありますか			
修繕、管理などのサービス	50	50	アポイ山荘やアポイ山麓公園の管理(委託契約:町→観光開発公社)、観光案内所の管理(委託契約:町→観光協会)、ジオサイトなどの環境整備(委託契約:町→建設会社)
デザインや印刷	50	50	ジオパークのロゴ・マスコットの使用(申請→許可)
ジオツアーやその説明案内に必要なそれ以外の備品やサービス(輸送、展示ケースなど)(詳細を別途添付のこと)	80		
得点の上限	150	100	
5.7 ネットワーク(自己採点合計は 200 点を越えることはできません)			

Global Geoparks Network
SELF EVALUATION DOCUMENT

申請機関が援助する協力企業のネットワークがある	100	100	推進協議会には、産業団体(農協・漁協・商工会)の代表も加わっており、団体傘下の企業との協力関係が構築されている。
申請機関とその協力者間で正規に契約を結んでいる	100		
申請者、企業、地方自治体間で出資する共同プロジェクトがある	50		
得点の上限	200	100	

	得点の上限	自己採点
「持続可能な地域経済」項目の小計	1000	800

付属資料3 アポイ岳ジオパーク 自然・文化遺産リスト

自然遺産				
指定	種別	種類	名称	場所
国	国定公園	自然公園	日高山脈襟裳国定公園	アポイ岳一帯
国	特別天然記念物	植物	アポイ岳高山植物群落	アポイ岳脊梁部
国	天然記念物	植物	幌満ゴヨウマツ自生地	幌満峡
国	天然記念物	蝶	ヒメチャマダラセセリ	アポイ岳脊梁部
国	天然記念物	鳥	クマガラ	アポイ岳一帯
国	天然記念物	鳥	シマフクロウ	主に大泉地区
国	天然記念物	鳥	オオワシ	主にアポイ岳周辺
国	天然記念物	鳥	オジロワシ	主にアポイ岳周辺
国	天然記念物	鳥	ヒシクイ	主に田代地区
国	天然記念物	鳥	マガン	主に田代地区
県	鳥獣保護区	保護区	鳥獣保護区	アポイ岳・幌満岳一帯、観音山
県	記念保護樹木	樹木	観音山の御神木	観音山

文化遺産				
指定	種別	種類	名称	場所
国	重要文化財	古文書	蝦夷三官寺等澗院（寺院）関係資料	様子郷土館
国	重要無形民俗文化財	舞踊	アイヌ古式舞踊	東様子生活館
市町村	文化財	建築物	等澗院護摩堂（寺院）	等澗院（寺院）
市町村	文化財	古文書	等澗院古文書	様子郷土館
市町村	文化財	彫刻	南無仏太子像（偉人、木造）	智教寺（寺院）
市町村	文化財	彫刻	薬師如来三尊仏像（仏教神、木造）	等澗院（寺院）
市町村	文化財	彫刻	聖観世音菩薩像（仏教神、木造）	等澗院（寺院）
市町村	文化財	彫刻	弁財天像（仏教神、木造）	等澗院（寺院）
市町村	文化財	彫刻	和助地藏尊（偉人、石造）	幌満地区
市町村	文化財	史跡	様子山道（古道）	アポイ山麓

付属資料4

第8次様似町総合計画におけるジオパーク施策の概要

様似町総合計画は、様似町が進める施策の基本方針及び実施計画をまとめたもので、様似町役場が10年ごとに策定している。その内容は、地域のおかれている現状を概観した序論、めざすべき姿を示した基本構想、施策ごとにその推進方策をまとめた基本計画からなる。

アポイ岳ジオパークに関する基本方針や目標は、地域づくりの基本であるこの計画に位置付けている。ここでは、総合計画の構成を紹介しながら、各項目に位置付けているジオパークに関する事項を記述する。

1 序論

1-1 計画策定の意義

1-2 計画策定の背景

ここでは、様似町の概況を述べるなかで、様似町がアポイ岳をはじめとした貴重な自然環境によって2008年に日本ジオパークに認定されたことを述べている。

1-3 計画の基礎

本計画の実施期間は、2011～2020年までの10年間

2 基本構想

2-1 めざすべき姿

ここでは、分野ごとに町の目指すべき姿を述べているが、その中でジオパークを通じた目標設定がなされている。一つは自然環境。アポイ岳の高山植物の保全活動を進めることで、その生態系を後世に引き継いでいくことを掲げている。二つ目は教育。地域の自然や文化を学ぶ活動を通じて郷土愛の醸成を図るとともに、子どもの学力向上と豊かな人間性を育むことを掲げている。三つ目は産業。ジオパークを通じて交流人口の拡大を図り、特産品開発など地域産業の活性化を図ることを掲げている。

2-2 発展方向

2-3 施策の体系

2-4 施策の基本方向

ここでは、2-3、2-4で系統づけた施策の体系ごとに、その進むべき方向性を述べている。この中で、GGN加盟を目指す取組みを通じて、地域の持

続的發展を図ることを述べている。

2-5 人口予測

3 基本計画

3-1 推進体制の確立のために

3-2 住みよい環境をつくるために

自然環境、景観、住環境に関する目標を述べている。ジオパークに関する事項としては、ジオサイトに関する適正な管理、ジオサイトの重要な要素である景観の保全、アポイ岳高山植物の保全について述べている。

3-3 安全な生活をおくるために

防災、火災、救急救命、交通事故に関する目標を述べている。ジオパークに関する事項としては、自然災害に関する教育推進について述べている。

3-4 健康で幸せな生活をおくるために

3-5 心豊かな人間性を養うために

幼児教育、学校教育、社会教育、文化・スポーツ振興に関する目標を述べている。ジオパークに関する事項としては、地域学習の推進による郷土愛の醸成と学力向上、自然・文化遺産の保全と活用について述べている。

3-6 豊かな暮らしを生み出すために

農林水産業や商工業などの地場産業の振興に関する目標を述べている。ジオパークに関する事項としては、ガイド養成やツアー開発など受入態勢の充実による観光振興について述べている。

3-7 発展の基盤づくりのために

ジオパーク推進、インフラ整備に関する目標について述べている。ジオパークに関しては、GGN加盟を目指す取組みを地域活性化の手段として位置付け、ジオツーリズムの推進や地場産業との連携による経済活性化、教育活動による郷土愛の醸成、住民参加による地域づくりを目指すことを述べている。

付属資料

計画の所要資金

付属資料5 アポイ岳ジオパーク 専門家ネットワークリスト

地質学、岩石学				
氏名		役職	所属	専門
新井田清信	Kiyoaki Niida	所長	アポイ岳地質研究所	岩石・鉱物・鉱床学
高木 秀雄	Hideo Takagi	教授	早稲田大学教育・総合科学学術院	構造地質学
豊島 剛志	Tsuyoshi Toyoshima	教授	新潟大学大学院自然科学研究科	地質学、構造地質学
高澤 栄一	Eiichi Takazawa	教授	新潟大学大学院自然科学研究科	岩石・鉱物・鉱床学
土屋 範芳	Noriyoshi Tsuchiya	教授	東北大学大学院環境科学研究科	資源開発工学
大谷 栄治	Eiji Ohtani	教授	東北大学大学院理学研究科	高压地球物理学
石渡 明	Akira Ishiwatari	教授	東北大学大学院理学研究科	岩石学、地質学
平野 直人	Naoto Hirano	准教授	東北大学東北アジア研究センター	海洋底科学
寅丸 敦志	Atsushi Toramaru	教授	九州大学大学院理学研究院	火山学、マグマ過程物理学
荒井 章司	Shoji Arai	特任教授	金沢大学理工研究域自然システム学系	岩石・鉱物・鉱床学
森下 知晃	Tomoaki Morishita	教授	金沢大学理工研究域自然システム学系	岩石・鉱物・鉱床学
道林 克禎	Katsuyoshi Michibayashi	教授	静岡大学理学部地球科学科	構造地質学
植田 勇人	Hayato Ueta	准教授	新潟大学理学部地質科学科	地質学
澤口 隆	Takashi Sawaguchi	准教授	東洋大学経済学部経済学科	構造地質学
小澤 一仁	Kazuhito Ozawa	教授	東京大学理学系地球惑星環境学科	岩石学
鈴木 明彦	Akihiko Suzuki	教授	北海道教育大学札幌校	地質学、層位・古生物学
阿部なつ江	Natsue Abe	技術研究副主幹	海洋研究開発機構地球内部ダイナミクス領域	岩石学
横山 光	Mitsuru Yokoyama	准教授	北翔大学教育文化学部教育学科	理科教育
加藤 孝幸	Takayuki Kato	代表取締役社長	アースサイエンス(株)	建築コンサルタント
島田 哲也	Tetsuya Shimada	教諭	新ひだか町立静内小学校	理科教育

生物学、生態学				
渡邊 定元	Sadamoto Watanabe	技術士	森林環境研究所	環境学
増沢 武弘	Takehiro Masuzawa	特任教授	静岡大学理学部	植物生態学
佐藤 謙	Ken Sato	教授	北海学園大学工学部生命工学科	植物生態学
大原 雅	Masashi Ohara	教授	北海道大学大学院地球環境科学研究院	植物生態学
小野 有五	Yugo Ono	名誉教授	北海道大学	地球生態学、環境地理学
林田 光祐	Mitsuhiro Hayashida	教授	山形大学農学部食料生命環境学科	森林生態保全学
西川 洋子	Yoko Nishikawa	研究主幹	北海道立総合研究機構環境科学研究センター	植物生態学、保全生態学
高橋 誼	Yoshimi Takahashi	研究家		元中学教諭、植物研究
渡辺 修	Osamu Watanabe	代表取締役	(株)さっぽろ自然調査館	高山植物保護ネットワーク事務局
丹羽 真一	Shinichi Niwa	主任技師	(株)さっぽろ自然調査館	高山植物保護ネットワーク事務局
中村 康弘	Yasuhiro Nakamura	事務局長	日本チョウ類保全協会	
文化、歴史、ツーリズム など				
谷本 晃久	Akihisa Tanimoto	准教授	北海道大学大学院文学研究科	史学（日本近世史）
松本 建速	Takehaya Matsumoto	教授	東海大学歴史学科	考古学
瀧澤 正	Tadashi Takizawa	専門研究員	北海道大学大学院文学研究科	史学（北海道近代史）
蓑島 栄紀	Hideki Minoshima	准教授	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	史学（北東アジア史、アイヌ史）
四ッ倉典滋	Norishige Yotsukura	准教授	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	海産植物学
佐藤 京子	Kyoko Sato	研究部長	北海道史研究協議会	古文書解読
田村 将人	Masato Tamura	特命准教授	札幌大学	文化人類学、民俗学
三浦 泰之	Yasuyuki Miura	学芸員	北海道開拓記念館	史学（日本近世史）
大野 徹人	Tetsuhito Ono	生活相談員	北海道アイヌ協会様似支部	アイヌ語研究
伊東 徹秀	Tessyu Ito	作家	フリーランス作家	地域プランナー、コピーライター
小川浩一郎	Koichiro Ogawa	副代表	エコ・ネットワーク	フットパス

付属資料6 アポイ岳ジオパーク 学術論文リスト

卒業論文・修士論文

著者	発表年	タイトル	論文の種類	分野	大学名
上條裕久	2009	幌満かんらん岩の変形微細構造の解明	修士論文	地質学	東京大学
藤村建広	2009	日高変成帯幌満かんらん岩体上部における斜長石レルズライトの岩石学的研究	卒業論文	地質学	新潟大学
宍戸拓磨	2009	日高変成帯に分布する岩石の研究	卒業論文	地質学	新潟大学
吉田和弘	2009	日高変成帯幌満かんらん岩体下部における層状構造の再検討	卒業論文	地質学	新潟大学
長谷川悟	2009	かんらん岩の変形機構の考察	修士論文	地質学	千葉大学
伊東めぐみ	2009	ハイマツ・キタゴヨウ交雑帯の分子生態学的解析	修士論文	生態学	千葉大学
長島僚子	2009	幌満かんらん岩体のシンプレクタイトの組織形成について	修士論文	地質学	金沢大学
金田駿	2010	日高変成帯幌満かんらん岩体中の硫化鉱物の多様性と成因	卒業論文	地質学	新潟大学
吉村憲治	2010	日高変成帯南部ニカンベツ川周辺地域における変成岩類とトーナル岩に関する構造地質学的研究	卒業論文	地質学	新潟大学
萩野啓	2011	幌満かんらん岩体から探るマントル深部の情報	卒業論文	地質学	東京大学
西谷真也	2011	北海道様似町ルベシュペ川・フチミ川流域における日高変成帯変成岩類・深成岩類の構造地質学的研究	卒業論文	地質学	新潟大学
下田祐太	2011	中央北海道様似町の上杵臼の貝類化石群集と古環境	卒業論文	地質学	北海道教育大学
梅沢晃司	2011	幌満かんらん岩複合岩体のダナイトチャンネルについて	卒業論文	地質学	北海道大学

中野貴之	2011	北海道幌満縞状カンラン岩体に見られる苦鉄質岩の化学的性質と成因	修士論文	地質学	九州大学
佐藤あゆみ	2011	フジハタザオ種の分子的系統解析	修士論文	地質学	東北大学
比佐真太郎	2012	島弧深部における熱物質輸送：日高変成帯最下部マントル・地殻の熱的相互作用の解明	卒業論文	地質学	東京大学
井坂美保子	2012	アポイ岳におけるエゾシカ (<i>Cervus nippon yesoensis</i>) による植生への影響	卒業論文	生態学	酪農学園大学
鹿野ゆう	2012	北海道三石地域に分布する角閃岩体の変成履歴の検討	卒業論文	地質学	弘前大学
三浦命緒	2012	北海道三石地域における珪藻化石を用いた新第三系の構造層序の検討：とくに蛇紋岩体の上昇との関係について	卒業論文	地質学	弘前大学
森山功二郎	2012	走査型電子顕微鏡後方散乱電子解析法(SEM-EBSD)によるカンラン石の結晶方位解析の基礎研究	卒業論文	地質学	早稲田大学
千川智弘	2013	SDW かんらん岩類(幌満岩体)の成因	卒業論文	地質学	金沢大学
柴田有毅	2013	北海道幌満かんらん岩体ダナイトの微細構造と結晶方位ファブリック～特にスピネルの形態について～	卒業論文	地質学	静岡大学
萩原知之	2013	日高変成帯南部におけるマイロナイト類の構造地質学的研究	修士論文	地質学	新潟大学
櫻井宏信	2014	北海道日高変成帯南端部上歌別川における変成岩類・トーナル岩に関する構造地質学的研究	卒業論文	地質学	新潟大学
井坂美保子	2014	アポイ岳におけるエゾシカ (<i>Cervus nippon yesoensis</i>) による植生への影響	修士論文	生態学	酪農学園大学
森山功二郎	2014	北海道幌満かんらん岩体における歪集中帯の結晶方位ファブリック変形機構	修士論文	地質学	早稲田大学

博士論文

著者	発表年	タイトル	論文の種類	分野	大学名
王巧云	2011	Determination of F and Cl in silicates and its application to geochemistry	博士論文	地質学	岡山大学
新藤和安	2011	Mineralogical and Chemical Study of Sulfide Minerals in Selected Japanese Ultramafic Rocks: Their Implication for Generation, Evolution, and Alteration	博士論文	地質学	筑波大学
瀧澤正	2011	明治初年開拓使漁場政策とアイヌ民族	博士論文	歴史学	北海道大学
Ranaweera Lalindra Vishwajith	2012	F, Cl, S, Water, and Li-O-Sr-Nd isotope systematics in Horoman peridotite and gabbro: Implications for fluid- and melt-rock interactions and chemical evolution of the mantle	博士論文	地質学	岡山大学

学術論文

著者	発表年	タイトル	論文の種類	分野
西川洋子・住田真樹子・棗庄輔	2009	温暖化にともなうアポイ岳ヒダカソウの開花時期の変化	保全生態学研究, 14, 2, 211-222.	生態学
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	2009	日本の地震活動－被害地震から見た地域別の特徴－〈第2版〉	文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地質学
環境省生物多様性センター	2010	自然環境保全基礎調査植生調査 「アポイ岳」.	環境省生物多様性センター	生態学
環境省生物多様性センター	2010	自然環境保全基礎調査植生調査 「様似」.	環境省生物多様性センター	生態学
Kita, S., Okada, T., Hasegawa, A., Nakajima, J., & Matsuzawa, T.	2010	Anomalous deepening of a seismic belt in the upper-plane of the double seismic zone in the Pacific slab beneath the Hokkaido corner: Possible evidence for thermal shielding caused by subducted forearc crust materials.	Earth and Planetary Science Letters 290.3, 415-426.	地質学
北風嵐	2010	北海道幌満かんらん岩体から発見された新鉱物・苧木鉱	岩石鉱物科学, 39(1), 32-33.	地質学

Malaviarachchi, S.P.K, Makishima, A., and Nakamura, E.	2010	Melt-peridotite reactions and fluid metasomatism in the upper mantle, revealed from the geochemistry of peridotite and gabbro from the Horoman peridotite massif, Japan.	Journal of Petrology 51.7, 1417-1445.	地質学
森下知晃・小澤一仁・小畑正明	2010	マントル研究の最近の動向—特に再肥沃化, レオロジー, オフィオライト問題: 第5回国際レルゾライト会議報告	岩石鉱物科学, 39(3), 85-103.	地質学
高橋誼・田中正人	2010	えりも町ニカンベツ・カンラン岩地とその周辺の植物	北方山草 第27号小特集: 超塩基性岩植物・北方山草会, 17-30.	生態学
Yamamoto, H., Nakamori, N., Terabayashi, M., Rehman, U, H., Ishikawa, M., Kaneko, Y., Matsui, T.	2010	Subhorizontal tectonic framework of the Horoman peridotite complex and enveloping crustal rocks, south-central Hokkaido, Japan.	Island Arc, Volume 19, Issue 3, 458-469.	地質学
川上源太郎・地質研究所津波調査班	2011	北海道沿岸における2011年東北地方太平洋沖地震津波の作用—河川における痕跡—	北海道地質研究所報告第83号	地質学
Kitakaze, A., Itho, H., Komatsu, R.	2011	Horomanite, (Fe, Ni, Co, Cu) ₉ S ₈ , and samaniite, Cu ₂ (Fe,Ni) ₇ S ₈ , new mineral species from the Horoman peridotite massif, Hokkaido, Japan.	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences 106, 204-210.	地質学
岡崎紀俊・地質研究所津波調査班	2011	北海道太平洋沿岸における2011年東北地方太平洋沖地震の津波調査	北海道地質研究所報告第83号	地質学
Sawaguchi, T.	2011	Strain Analysis of Ellipsoidal Pyroxene-Spinel Seams in the Horoman Peridotites.	Journal of Toyo University, Natural Science, 55, 1-16.	地質学
Ikehata, K., Hirata, T.	2012	Copper isotope characteristics of copper-rich minerals from the Horoman peridotite complex, Hokkaido, northern Japan.	Economic Geology, 107(7), 1489-1497.	地質学
Kita, S., Hasegawa, A., Nakajima, J., Okada, T., Matsuzawa, T., & Katsumata, K.	2012	High-resolution seismic velocity structure beneath the Hokkaido corner, northern Japan: Arc-arc collision and origins of the 1970 M 6.7 Hidaka and 1982 M 7.1 Urakawa-oki earthquakes	Journal of Geophysical Research: Solid Earth (1978-2012), 117(B12).	地質学